

国内経済情勢

概 観

8月の鉱工業生産、出荷はともに増加し、企業の在庫補充態度もやや積極化するなど、景気回復の動きは着実に広がりつつある。この間にあって卸売物価は大幅に上昇し、今回の景気後退前の水準を上回るなど、今後の動きが注目される。

金融面では、9月の銀行券平均発行高は、景気回復を映じて前年比水準を高めた。また8月の全国銀行貸出の伸びはやや低下したが、中小企業金融機関については引き続き高水準の増勢を維持している。

8月の国際収支では、海員スト解決の影響もあって輸入が大幅に増加し、貿易収支の黒字幅は縮小したものの、資本収支が流出超幅を縮小したことなどから総合収支の黒字幅は557百万ドルに拡大した。

なお、日本銀行は国際収支の現状を考慮して、9月30日をもって輸出前貸手形制度および期限付輸出手形制度を廃止した。

8月の生産、出荷はともに増加

8月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比、速報)は、前月微減のあと+1.8%となり(原計数の前年同月比+10.3%)、3ヵ月移動平均でならしめると、昨年末以来8ヵ月連続して増加している。

年初来の動きを財別にみると、建設資材が一貫して高い伸びを示しているほか、生産財、非耐久消費財が春ごろから回復の度合いを強めている反面、年初にかなりの増加を示した一般資本財、耐久消費財はこのところ伸びが低下している。

8月の鉱工業出荷(季節調整済み、前月比、速報)は、前2ヵ月小幅減少のあと+0.7%と増加した(船舶を除く出荷では+1.3%)。また、原計数の前年同月比では+9.5%となった。

一方、8月の生産者製品在庫(季節調整済み、前月比、速報)は、前月に続き+0.5%と増加し(原計数の前年同月比+0.1%)、3ヵ月移動平均値の前月比でみても年初来の減少傾向から横ばいに転じている。なお、製品在庫率指数は101.9とほぼ前月並みの水準で推移した。

設備投資関連指標の動きをみると、8月の一般資本財出荷(季節調整済み、速報)は、前月比+0.8%と小幅ながら連続して増加を示した。内容をみると土木建設機械や化学機械の増加がやや目だっている。8月の機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、速報)は、非製造業が電力を主体に反動増となったのに加え、製造業が3ヵ月連続の増加を示したこともあって、前月比+23.0%と高水準の伸びとなった。また8月の民間産業分建設工事受注額(季節調整済み、前月比、速報)は+1.4%と続伸し、官公需分は前月減少の反動もあって+35.8%と著増した。

8月の労働および賃金関連指標(いずれも季節調整済み、速報)をみると、一般求人倍率は新規求人の増加から1.20と前月(1.14)に比して大きく上昇した。また常用雇用(全産業)は非製造業を中心に前月比+0.1%の増加となった。一方、名目賃金(全産業)は、例年の夏期一時金のなかで8月以前に繰り上げて支払われたものがあったことなどから同-2.5%と減少した。

なお、8月の全国百貨店売上高(速報)は衣料品等を中心に前年同月比+15.7%の増加となった。

卸売物価は大幅上昇

9月の商品市況をみると、綿糸、くず鉄が大きく値上がりしたほか、鋼材、そ毛糸、セメント等が続伸し、非鉄金属、石油製品、外材等も堅調に推移するなど、ほぼ全般にわたり上昇傾向を強めている。また卸売物価は、8月に前月比+0.7%(前年同月比+0.7%)と月中としては44年9月以来の上昇幅を示したあと、9月にはいって上・中旬ともそれぞれ前旬比+0.3%の上昇を続けている。

これは、秋需期入りという季節的要因も加わって、官公需、住宅関連需要やユーザー・流通段階での在庫補充買いなど需要の増加による面が大きいが、海外価格の上昇(外材、そ毛糸)のほか、生産調整の続行、在庫凍結など供給面の要因も作用している。

9月の消費者物価(東京、速報)は食料費(くだもの等)と被服費(秋冬物衣料)を中心に総合で前月比+0.9%とかなりの上昇をみせた。もっとも前年9月の上昇幅が、異常天候による野菜、くだもの等の急騰などからとくに大幅(前月比+4.1%)であったため、前年同月比では+3.3%となった。

季節商品を除く総合では前月比+0.4%の上昇となった(前年同月比+5.1%)。

銀行券の増勢続く

9月の銀行券は月中1,519億円の発行超(前年184億円の還収超)となり、一方財政資金は外為会計の引き続き払超もあって収支じりでは3,319億円の払超となった。このため「その他」勘定と合わせた金融市場の月中資金余剰額は2,872億円となり、日本銀行は主として売オペレーションによりこれを調整した。

9月の銀行券月中平均発行高は前年同月比+19.4%と伸びを高めた(沖縄を除くと同+18.8%程度)。これには9月の曜日構成も一つの要因として働いているが、基本的には、消費の着実な増大などにささえられた景気回復を反映したものとみられる。一方、8月の預金通貨平均残高は前年が輸出前受金流入の急増などから著伸(+27.5%)したことも響いて、前年同月比+16.6%と引き続き大幅に低下した。

8月の全国銀行貸出増加額は、前月急増の反動もあって前年同月比+14.1%となった(前月同+42.3%)。なお、このところ都市銀行筋の貸出態度は従来に比してやや慎重となっているようにかがわれる。一方、中小企業金融機関の貸出増加額は、不動産、建設、個人住宅ローンなどを主体に前年同月比8割増と高い伸び率を示した。

8月の全国銀行貸出約定平均金利は、月中-0.114%とほぼ前月(-0.120%)並みの大幅低下を示し、月末の水準は6.896%と7%を下回った。これは、6月の公定歩合改訂に伴う短期金利の引下げに加え、長期金利も引下げが本格化したため

である。

9月の公社債市況は前月に続いてやや軟化をみせたが、株式市況は総じて騰勢を続けた。

なお、日本銀行は国際収支の現状を考慮して、9月30日をもって輸出前貸手形制度および期限付輸出手形制度を廃止した。

8月の輸入は著増

8月の国際収支は、貿易収支が海員ストの解決に伴う輸入の大幅増加から729百万ドルの黒字と前月(同971百万ドル)に比して黒字幅を縮小したが、資本収支が流出超幅を縮小したことなどから総合収支では557百万ドルの黒字(前月同402百万ドル)となった。貿易収支を季節調整後でみると、輸出が前月比+4.0%の増加、輸入は同+17.8%の著増となり、収支じりでは659百万ドルの黒字となった(前月同823百万ドル)。

8月の輸出を通関ベースでみると、前年同月比+17.1%と伸び率を高めたが、邦貨表示額では同+0.2%とほぼ前年並みの水準となっている。ドル表示額の品目別では、鉄鋼、テレビ等が前年水準を下回り、自動車も低い伸びにとどまったもの

の、船舶、科学光学機器、テープレコーダー等は引き続き高い伸びを示している。地域別には米国向けがほぼ前年水準となったが、東南アジア向けが久しぶりに前年を上回ったほか、西欧向けが大幅な増加となった。

9月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、機械類が高水準を維持しているほか、鉄鋼などの回復もあって前月比+7.4%と伸び率を高めた。

8月の輸入(通関ベース)は、前年同月比+37.4%と著伸した(邦貨表示額では同+17.5%)。品目別には、海員ストにより大きく影響を受けた原燃料の回復がみられたほか、肉類、魚介類等の食料品や一般消費財も引き続き高い伸びを示している。

8月の輸入承認額(季節調整済み)は原子力発電関係の大口契約が含まれたこともあって、前月比+17.9%とさらに増勢を高めた(原計数の前年同月比+54.6%)。

9月の外貨準備は月中117百万ドル増加し、月末残高は16,489百万ドルとなった。

(昭和47年10月6日)